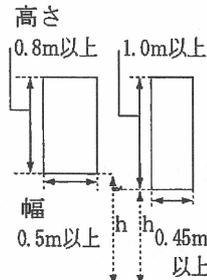
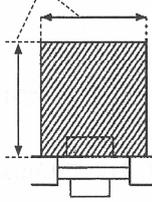
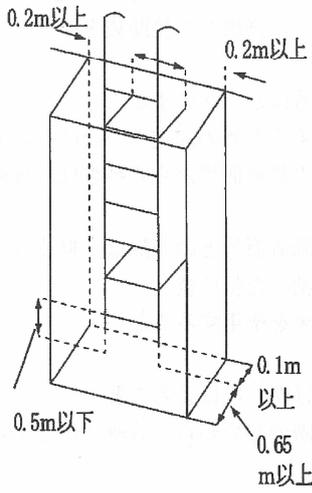
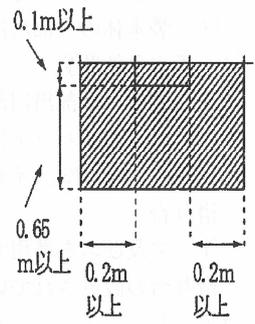
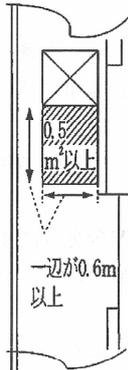
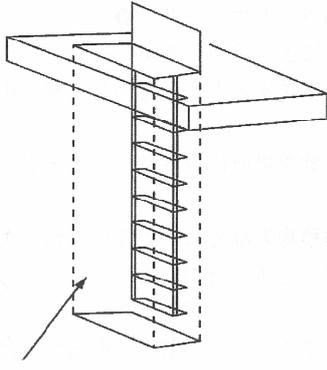
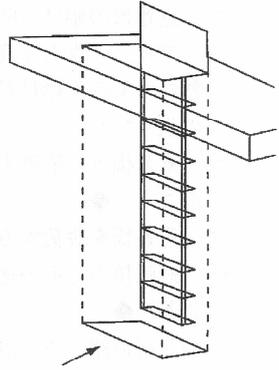
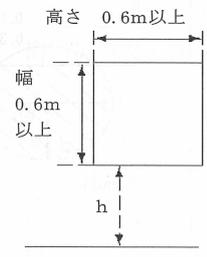
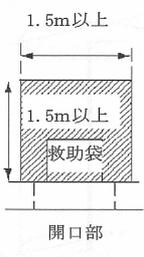
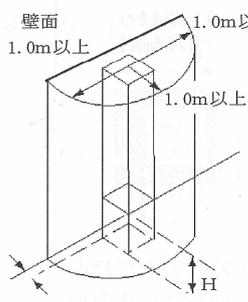
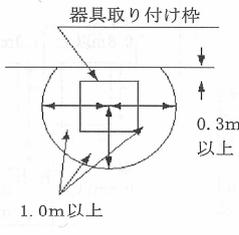
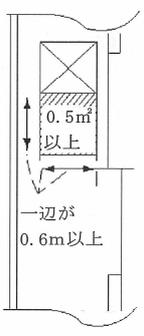
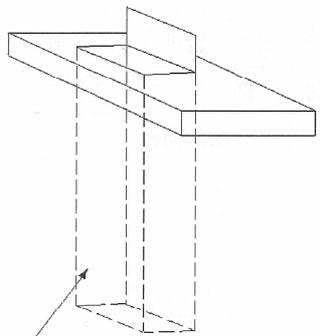
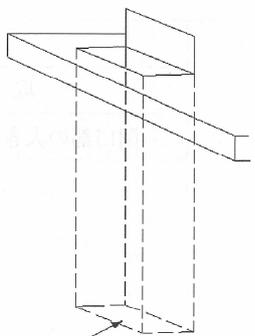


第23-1表

	設置位置			
	取付部		降下空間	避難空地
	開口部の大きさ	操作面積		
避難はしご	<p>高さ 0.8m以上 1.0m以上</p>  <p>幅 0.5m以上 0.45m以上</p> <p>h : 壁面に設ける開口部の下端は床面から1.2m以下とすること ただし、避難上支障ないように固定又は半固定のステップ等を設けた場合はこの限りでない ・床面に開口部を設ける場合は、直径0.5m以上の円が内接することができること</p>	<p>0.5㎡以上かつ一辺が0.6m以上</p>  <p>・器具の水平投影面積は操作面積から除く ・避難はしごの操作に支障ないこと</p>	<p>0.2m以上</p>  <p>0.2m以上</p> <p>0.1m以上</p> <p>0.65m以上</p> <p>0.65m以上</p> <p>・縦棒の中心からそれぞれ外方向に0.2m以上及び横棧の前面から奥行0.65m以上の角柱形の範囲 ・縦棒の本数が1本の場合は、横棧の端からそれぞれ横方向に0.2m以上とする</p>	<p>0.1m以上</p>  <p>0.65m以上</p> <p>0.2m以上</p> <p>0.2m以上</p> <p>降下空間の水平投影面積以上の面積とする</p>
避難器具用ハッチに収納した金属製避難はしご	<p>直径0.5m以上の円が内接する大きさ又はこれと同等の大きさとする</p>  <p>0.5m以上</p> <p>一辺が0.6m以上</p> <p>・0.5㎡以上かつ一辺が0.6m以上 ・器具の水平投影面積は操作面積から除く ・操作に支障ないこと</p>	 <p>避難器具用ハッチの開口部の面積以上を有する角柱形の範囲</p>	 <p>降下空間の水平投影面積以上で、避難上の安全性が確保されたもの</p>	

	設 置 位 置			
	取 付 部		降 下 空 間	避 難 空 地
	開口部の大きさ	操作面積		
緩降機 (同時に複数人が降下する構造のものを除く)	<p>高さ 0.8m以上 1.0m以上 幅 0.5m以上 h 0.45m以上</p> <p>h : 壁面に設ける開口部の下端は床から1.2m以下とすること ・床面に開口部を設ける場合は、直径0.5m以上の円が内接することができること</p>	<p>0.5m以上かつ一辺が0.6m以上 0.5m²以上</p> <p>・器具の水平投影面積は操作面積から除く ・緩降機の操作に支障ないこと</p>	<p>0.5m以上 壁面 0.15m以上 0.3m以下 0.5m以上</p> <p>・壁面からロープの中心までの距離が0.15m以上0.3m以下となるように設けること ・緩降機を中心とした半径0.5mの円柱形の範囲以上を確保すること</p>	<p>0.15m以上 0.3m以下 0.5m以上</p>
備 考	1 0.1m以内で避難上支障のない場合若しくは0.1mを超える場合でもロープを損傷しない措置を講じた場合は、突起物を降下空間内に設けることができる 2 降下空間及び避難空地を共用して他の緩降機を設ける場合は器具相互の中心を50cmまで接近させることができる 3 緩降機を吊り下げるフックの取り付け位置は、床面から1.5m以上1.8m以下の高さとする			

	設 置 位 置			
	取 付 部		降 下 空 間	避 難 空 地
	開口部の大きさ	操作面積		
救 助 袋 (斜降式)	<p>高さ 0.6m以上 幅 0.6m以上 h</p> <p>h : 開口部の下端は床から1.2m以下とすること ただし、避難上支障ないように固定又は半固定のステップ等を設けた場合はこの限りでない</p>	<p>1.5m以上 1.5m以上 救助袋 開口部</p> <p>救助袋の設置部分を含み幅1.5m奥行き1.5m以上とすること なお、特に操作に支障のない範囲で、2.25m²以上の面積で形状を変えることができる</p>	<p>1.0m 袋の中心 25° 1.0m 35° 1.0m 1.0m 降下空間 25° H (m) 35° $L = H \times 0.2$</p>	<p>避難空地 2.5m 1.0m 以上 1.0m 以上</p>
備 考	1 開口部は、入口金具を容易に操作できる大きさであり、かつ、使用の際、袋の展張状態を設置位置近くの開口部等（設置開口部も含む）から確認できること 2 防火対象物の側面に沿って降下する場合の降下空間は、救助袋と壁面との間隔（最上部を除く）は、0.3m（ひさし等の突起物のある場合は突起物の先端から0.5m（突起物が入口金具から下方3m以内の場合は、0.3m））以上とすることができる			

	設 置 位 置			
	取 付 部		降 下 空 間	避 難 空 地
	開口部の大きさ	操作面積		
救 助 (避難器具用ハッチに収納したものを除く)	 <p>高さ 0.6m以上 幅 0.6m以上 h</p> <p>h : 開口部の下端は床から1.2m以下とすること ただし、避難上支障ないように固定又は半固定のステップ等を設けた場合はこの限りでない</p>	 <p>1.5m以上 1.5m以上 救助袋 開口部</p> <p>救助袋の設置部分を含み幅1.5m奥行き1.5m以上とすること なお、特に操作に支障のない範囲で、2.25㎡以上の面積で形状を変えることができる</p>	 <p>壁面 1.0m以上 1.0m以上 1.0m以上 H</p> <p>救助袋と外壁の間隔は0.3m以上（外壁にひさし等の突起物がある場合は、当該突起物の先端との間隔は0.5m以上 ただし、突起物が入口金具から下方3m以内の場合は0.3m以上）</p>	 <p>器具取り付け枠 0.3m以上 1.0m以上</p> <p>降下空間の水平投影面積以上とする</p>
救助袋 (避難器具用ハッチに収納したもの)	<p>1 降下空間、避難空地を共用して器具を設ける場合は、器具相互の外面を1mまで接近させることができる</p> <p>2 下部出入口と降着面等との間隔（H）は、0.5m以下であること</p>			
	<p>直径0.5m以上の円が内接する大きさ又はこれと同等の大きさとする</p>  <p>0.5m以上 一辺が 0.6m以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.5㎡以上かつ一辺が0.6m以上 ・器具の水平投影面積は操作面積から除く ・操作に支障ないこと 	 <p>避難器具用ハッチの開口部の面積以上を有する角柱形の範囲</p>	 <p>降下空間の水平投影面積以上で避難上安全性が確保されたもの</p>	